
埼玉医科大学総合医療センター

消化管・一般外科

2010 年度年報



巻頭言

教授 石田秀行

昨年「消化管・一般外科 5年のあゆみ」を発刊し、はや1年となりました。来年からは必ず年報を発行しようと、教室員と約束していましたが、まず第1歩を踏み出すことができました。昨年までの5年間は診療体制の整備を最優先して参りました。診療を最重点にすることは至極当然のことですが、外科医不足、日常診療の多忙な中で、教室員が一丸となって「突っ走ってきた」通信簿と捉え、自らの足跡を検証するとともに、将来につながる目標設定の一助としたいと考えています。

当科では消化管の悪性腫瘍を対象とする腫瘍外科と、急性腹症を中心とした腹部救急外科が診療の2本柱です。食道癌、胃癌、大腸癌は手術のみならず、化学療法などを加えた集学的治療が進歩し、その結果著しい予後の改善が認められるようになりました。また、当院は埼玉県の地域がん診療拠点病院としては最大病床数を有することから、さまざまな併存疾患をもった患者さまの診療を行っています。このような特徴を十分鑑み、当科で完結できる治療についてはすべて責任をもってあたるのはもちろんですが、他科との密接な連携のもと、癌治療に尽くして参ります。また、消化管穿孔などの腹部救急疾患の手術件数も多く、全例救命を目指し、365日24時間体制で対応しております。まだ誕生して6年の若い教室（診療科）ではありますが、地域の先生方のご指導を賜りながら、常にレベルの高い診療をめざして鋭意努力していく所存ですので、今後とも多方面からのご指導をお願い申し上げます。

診療体制を構築しつつ、臨床研究や基礎研究（トランスレーショナル・リサーチ）の準備も進めてきました。臨床研究では、この6年間で、当科が担当している食道癌、胃癌、大腸癌のすべての癌種について、国内主要学会のシンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどに採用されるようになりました。外科感染症あるいは癌化学療法の分野でも同等の成果が得られています。今後は、経腸・静脈栄養、緩和医療等についてもレベルアップを図り、地域の代表として全国に成果を発信できるように努めていきたいと思えます。また、「川越から世界へ」を常に心がけ、今や常識ではありますが、英文で成果を発表するように心がけています。来年以降、基礎研究の成果が公表されるようになると思えます。

絶対的外科医不足のなかで、10年後の埼玉県の外科医療を支える人材をいかに育成するか、喫緊の課題と考えています。はじめから専門分野に偏りすぎると、専門以外の領域についていくことが全く出来ません。自分が専門とする分野の手術が出来るのは当たり前です。リサーチ・マインドを含め、柔軟なもの見方や対応が可能で、専門以外にも標準以上の力量を発揮できる人材を輩出すべく、当

科をローテーションする初期研修医や、消化器外科を目指す後期研修医にも接しています。「やらない理由」を探したり、「様子見」ほど楽で無責任なことはなく、「やるにはどうしたらよいか」「どうしたら難局を突破できるか」を常に心身ともに滲み込ませた若手外科医を育成するのが私の責務でもあり、夢でもあります。夢に終わることがないように、日々精進していく所存です。

今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

平成 23 年 6 月

2010年度 フォトアルバム



4月16日
SAGES 大澤 Dr
プレナリーセッション発表



4月21日 新人歓迎会



7月19日
腹腔鏡手術講習会（富士吉田）



9月26日 第3回石田杯



10月2日
山本 Dr 結婚式



10月13日
ジョセフサンドール教授講演



10月19日
福島県立医科大学 竹之下誠一教授による手術指導

11月14日 埼玉医科大学合同腹腔鏡ラボ(須賀川)



受講証



11月18日
21回消化器癌発生学会
隈元 Dr 優秀ポスター賞授賞式

11月26日
第65回大腸肛門病学会

(石橋 Dr パネリスト)



(久保田 Dr 御尊父が座長でした)



(石田教授 ワークショップ司会
帝京大学 渡邊聡明教授とともに)



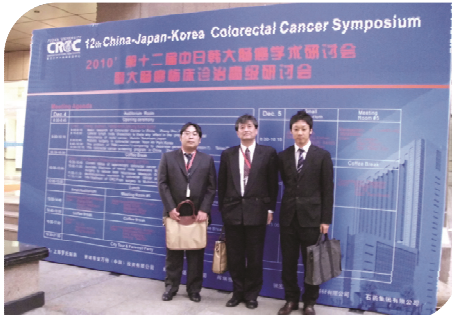
一般演題口演日程

第1日目・26日(金)

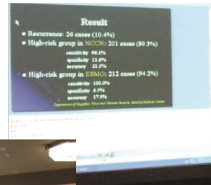
第3会場 アクトシティ浜松 22+23会議室

大腸癌1 (8:30~9:19)	座長: 久保田芳郎
O1-001 肛門尾骨靭帯の解剖	静岡県立静岡がんセンター大腸外科 相笠 祐介 ほか 613
O1-002 内肛門括約筋切除術への取り組み	東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座生体調節外科学分野 矢崎 伸樹 ほか 613
O1-003 下部直腸癌に対するISRの手術術式と臨床成績	明和病院外科 吉江 秀範 ほか 613
O1-004 直腸癌低位吻合の再建法に関する検討	杏林大学消化器一般外科 松岡 弘芳 ほか 613
O1-005 結腸癌手術時の吻合法選択の基本方針とその治療成績の検討	金沢社会保険病院外科 佐藤 就厚 ほか 614
O1-006 結腸癌(7-8cm)小開腹手術の短期、長期成績	青森市民病院外科 橋爪 正 ほか 614
O1-007 結腸癌に対する小切開根治術280例の検討	埼玉医科大学総合医療センター消化器・一般外科 久保田 晋 ほか 614

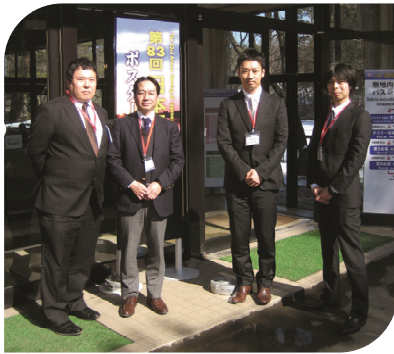
12月4-5日
第12回日中韓大腸癌シンポジウム



(がん・感染症センター
都立駒込病院 名誉院長
森武生先生と)



(天野 Dr 発表)



3月3-5日
第38回日本胃癌学会
(三沢)



外来スタッフ



単孔式腹腔鏡補助下大腸切除術
風景



カンファレンス
ルームにて

目 次

巻頭言

教授 石田秀行

2010 年度 フォトアルバム

寄 稿

旧センター第二外科の潮流	1
毛呂病院 副院長 小林正幸	
教室にお世話になって思うこと	2
埼玉医科大学総合医療センター 客員教授 岩間毅夫	
医療センター第一期研修医として報告	3
赤心堂病院 外科部長 黒田 徹	
開業報告	4
たけうちクリニック 院長 竹内幾也	
消化管・一般外科副医局長の経験	5
石畝 亨	
大腸肛門病学を学んで	6
松愛会 松田病院 石井正嗣	
ハンガリー ペーチ大学留学報告	7
石橋敬一郎	
診療実績	9
当科における診療・研究・教育	17
教育カンファレンス	20
業 績	
著書	24
総説	25
学術論文	26
学会発表	31
座長・司会	44
講演会・懇話会など	46
主な学会・研究会発表の年次推移	50
学位・賞	51
人 事	53
編集後記	54

寄稿

旧センター第二外科の潮流

毛呂病院 副院長 小林正幸

昨年、石田教授就任 5 周年で発行された記念誌に、拙文を掲載して頂きました。今回は平成 22 年度の一年間のまとめの本誌に、またまた私に声を掛けて頂き恐縮しています。

5 年を経て、新たな一步を踏み出したこの一年。石田教授を始め、教室の先生方も更なる意気込みの中で経過した 1 年であったことと思います。教室の成果を見せてもらいました。5 年間の経験を土台に、さらに飛躍した 1 年であったことを窺い知る事が出来ました。

最近、外科を希望する若手医師が少なくなっていると聞きます。消化管・一般外科もその波をもろに受けているのではないのでしょうか？しかし、消化管・一般外科は石田教授のご指導のもとに、若い先生方が思いっきりその力を発揮できる場が提供されています。先生方は日々の仕事を精一杯こなしていることでしょう。外来・病棟担当、検査、手術と働き、当直も・・・でも若さ故に可能と言えます。何より経験がとても重要な職種です。一度の経験が後におおいに役立つことがあります。教室の先生方の益々のご活躍を祈念します。

旧第二外科故関正威教授は筆頭者としての論文を、「毛呂の柏樹子」の名で一冊にまとめられました。その巻頭に書かれている言葉をここに記します。

「毛呂の地に根づいた柏樹が、清風を喜び、陽光に感謝し、あらしに耐えながら育ってゆきました。柏葉は時々露を宿し、露はまもなく消えましたが、季節が来ればまた宿りました。柏樹は露を宿すたびに、生き生きと輝いて見えました。

縁あって柏樹は、川越の地に移植されることとなりました。やはりそこにも、清風と陽光とあらしはあるでしょう。そして再び露が柏葉に宿るでしょう。十四本の年輪となって刻み込まれた毛呂の自然は、柏樹の中にいつまでも生き続けることでしょう。」

既に年輪は川越で二十二本が加わりました。これからもしっかりと年輪を加えて行くことでしょう。

教室にお世話になって思うこと

埼玉医科大学総合医療センター 客員教授 岩間毅夫

2010年4月から埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科の一員としてお世話になっております。お忙しい先生方のお時間を頂き、診療上の手続きなどを教えていただき、誠にありがとうございます。

私が医科歯科大学第二外科（現腫瘍外科）の医局長だったとき、石田秀行教授が同級の方と一緒に面接に来られました。教室内でも大変な時期でしたが、研究は私達のグループに参加していただきました。彼は白ネズミを使った肝転移の治療実験をして新しい発見をしました。肝動脈や門脈に000ナイロン程の太さのカニューレションをする手伝いをしましたが、その技術に驚嘆しました（図）。よくマウスが死んだのですが、その原因も明らかにして改善しました。よく議論もしました。石田教授が埼玉医科大学総合医療センターに移られた後も、学会などでお目にかかりました。

石田教授に最も助けていただいたのは、私が2007年3月末パシフィコ横浜で国際消化管遺伝性腫瘍学会 InSiGHT（雑誌；**Familial Cancer**）をイギリスの後を受けて主催したときでした。その時は教室を挙げて応援して頂いた感激は忘れられません。石橋敬一郎先生、岡田典倫先生、竹内幾也先生、権田剛先生、大澤智徳先生、横山勝先生、桑原公亀先生、石畝亨先生、また失礼ながらその時お名前を記憶できなかった先生方には改めて御礼申しあげます。おかげさまで5大陸26カ国から多くの演題応募と参加者を得て無事終了できました。その後2009年6月ドイツ、2011年4月アメリカで開催されております。

外から拝見して、消化器の学会では有力な教室に並んで常に活動しているのは頼もしい限りです。教授が日本消化器外科学会の学会誌編集委員であるのも、教室の学問的業績の故だと思います。現在、大腸癌研究会では遺伝性大腸癌（**familial adenomatous polyposis** と **Lynch syndrome**）のガイドラインを作成中です。石田教授はその中心的役割を担っています。

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教室の将来には、歴史の新しい私立大学には珍しいほどの大きな活躍の舞台が待っていると予測されます。

教室のますますの発展のお手伝いのできればありがたいことだと思っております。

昔の実験：

カニューレ内へ肝動脈血が逆流しているのに注意



医療センター第一期研修医として報告

赤心堂病院 外科部長 黒田 徹

私は昭和 60 年に埼玉医大を卒業しました。その年の春に総合医療センターが開院となりました。自分なりに考え、第二外科、関教授の下で研修医として勤務させて頂く事になりました。

開院当初は、外科医は私も含め 7 人でした。手術は定型的なものがほとんどでしたが、何もわからない私にとっては勉強する事ばかりでした。消化器外科を中心に勉強し、乳腺は小林先生に指導を受けました。

院内のローテーション、外科の研修、関連病院に出向を終え、平成 5 年に医療センターの救命救急センターに勤務を命じられました。ところが、その勤務直前に関教授が急逝されました。救命センターを 2 年勤務した頃、加賀美教授の関係で赤心堂病院からのお誘いがあり勤務させて頂く事になりました。

赤心堂病院では、胃がん、大腸がん、乳がんはもとより、胆石、ヘルニア、虫垂炎まですべて自分で手術ができました。四苦八苦ししながら勤務 10 年が過ぎた頃、前部長が定年となり、私が外科部長に任じられました。さしあたり外科医の補充が必須でした。まず思いあたったのは、医療センターで助手をしていた山田先生でした。彼は私の 2 年後輩で癌研や海外留学など経験した優秀な人材でした。何度も誘った処、当院に来てくれる事になりました。

現在当院の外科は、この春から埼玉医大の卒業生である桂田医師が加わり、計 4 人の常勤医師、および埼玉医大総合医療センター、順天堂病院、日本大学、日本医大などの多くの非常勤医師の助けを得て診療しております。

私個人は現在、乳癌を中心に診療しており、いくつかの研究会の世話人もさせて頂いておりますが、乳癌の診療だけでは許されず、消化器疾患、内視鏡も続けており、日々多忙な毎日を送っております。

埼玉医科大学総合医療センターの OB として、消化管・一般外科の今後の益々の発展を心よりお祈りするとともに、緊密な連携を是非お願いしたいと思います。

開業報告

たけうちクリニック 院長 竹内幾也

開業して1年半が経ちました。医療と経営の二足のわらじを履くようになり勤務医のころと違った経験をしております。お蔭様で少しずつではありますが患者数も増え、地域に浸透しつつあると感じています。消化管・一般外科の教室員の皆様には緊急・手術患者の受け入れをはじめ日頃大変お世話になっております。

開業して間もない頃は、内視鏡検査が週に1件程度だったのですが、最近ではほぼ毎日診察開始時刻前に1・2件行っている状況です。高血圧・高脂血症・糖尿病などのいわゆる慢性疾患の患者も増えつつあり、そのため医師会が主催する勉強会に極力参加しています。先日、埼玉医科大学総合医療センター主催の緩和ケア研修会に参加しました。多くの顔見知りの先生が参加されていましたが、崎元先生及び桑原先生が指導医として活躍されていました。私も既に数人の緩和医療を受けている患者を担当しており、緊急・手術患者の対応だけでなく緩和についても連携ができることにはたいへん有難く感じます。

私の最近のつぶやきは開業しての1年半長期休暇が全くとれないことで(当たり前なのですが・・・)、毎年のように行っていたイタリアが懐かしく就寝前に google Earth でイタリア旅行をしている気分浸っております。そういえばもう十年前になりますか、石田先生とフランスへ蝶捕獲ツアーに御一緒させて頂きました。ホエブス?などという珍しい蝶を捕獲するため、イタリア国境近くで怪しい東洋人と周囲に思われつつも高山植物の影に身を潜め、ひたすら蝶の出現を待っていたあの頃を思い出します。もう少ししたら石垣島くらいは御一緒させて頂こうと考えております。最近の医局の先生方は私のように蝶捕獲のためではなく、ASCOのような国際学会に演者として外国に行かれるようです。石田先生の御尽力でこの数年で随分アカデミックな教室になってきていると感じています。

この度、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の病診連携の一環として、胃癌・大腸癌のパスに参加させていただくことになり、大変感謝申し上げます。これまで縁遠いと思われてきた私の開業している鴻巣市と医療センターが少しでも密接な関係になるよう努力してまいります。

消化管・一般外科副医局長の経験

石畝 亨

2009年8月より大澤医局長（総務）のもと、副医局長（副総務）として主に当直、外勤など教室運営のお手伝いをさせて頂いて参りました。私は、2005年5月に外科再編により消化管・一般外科が発足と同時に埼玉医科大学消化器一般外科Ⅱより移動しました。当初より石田教授には臨床および学会活動など幅広く御指導頂いております。現在は、主に上部消化管を中心に日々診療しております。大澤医局長体制のもと、3年目になりますが、教室の運営、また、新入教室員を確保する大変さを痛感する毎日であります。当科は、癌症例および一般外科症例が豊富であり、また、学会・論文などにも積極的に参加し外科専門医を取得するうえでは非常に恵まれております。しかし、近年外科医不足が急速に進んでおり、当科も今年度新入教室員がおりませんでした。これからは、手術の楽しさはもちろんのこと、外科医は最後の砦で必要だということを教え、新人確保に努める所存であります。

このような事情から、今年度は各関連施設の先生方には当直・外勤などで御迷惑をおかけしてしまいましたことをこの場をもってお詫び申し上げます。

2011年の当教室の様子を簡単ではありますがご説明いたします。毎朝8:00に病棟での朝礼で1日が始まり、8:40チーム回診開始、その後、チーム別に手術、検査、外来に分かれ診療しております。手術に関しては多数の定期・緊急手術を行い、各先生方からの御紹介患者に対する対応も速やかに行えるよう徹底しております。

カンファレンスは月曜日7:45-8:30、水曜日7:15-8:30、17:00-19:00に行っております。昨年までは、術前術後症例検討、学会予行、抄読会、各チームによるクリニカルカンファレンスに当てておりましたが、水曜日7:30-8:15は、全医局員が全ての患者を把握するべく、入院患者の症例検討を加えました。また、看護師さんとの情報交換の意味も含め火・金曜日の8:30-8:40の間で病棟での症例検討も継続し行っております。その他、他科とのカンファレンスでは2週に1回、放射線科との食道カンファレンス、月に1回の消化器肝臓内科との上部消化管カンファレンスも定期的に行っております。

石田教授による病棟回診は水曜日16:00より行っております。

当教室は発足し6年と若い教室ではありますが、多くの若手医師が希望されるような魅力ある教室に、また、各関連施設の先生方から当教室なら安心して紹介できると思われるような教室にするべく、微力ながら臨床および指導をして参りたいと思っておりますので、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

*埼玉医科大学ではすでに医局制度は撤廃されていますが、診療科の総務担当者が従来の医局長に相当します。本稿では旧来の「医局長」の呼称を使用させて頂いたこととお断り致します。

大腸肛門病学を学んで

松愛会 松田病院 石井正嗣

私は消化管・一般外科に入局後、石田先生のもとで3年間消化器外科医としての研鑽を積み、昨年の8月から静岡県浜松市の松田病院に赴任させて頂きました。松田病院は当医局から初めて、先輩である田島雄介先生が先立って修練を行い、誰の目にも明らかな skill-up を羨ましく思っておりました。ここで松田病院に関してご説明いたします。この施設は閑静な住宅街に位置する病床数 111 床の地域密着型市中病院であり、近隣には浜名湖や雄大な遠州灘を臨む一方で、スズキ自動車や YAMAHA などの企業も本社を置く活気溢れる魅力的な商業都市でもあります。消化器外科学の中でも主に大腸肛門病に関して、その中でも特に専門性の高い肛門疾患において全国的に広く知れわたる病院であります。私は赴任後の1か月間は、主に松田院長直々に外来診察、肛門手術、大腸手術に関して懇切丁寧な御指導を頂きました。『見て・覚えて』を繰り返し、3ヶ月が経った頃から、肛門手術、外来診療、内視鏡検査、入院患者管理など個人での診療の機会を頂きました。大学病院では肛門疾患の症例数も限られ、日常診療で経験する機会が非常に少なかったわけですが、患者のニーズが如何に高いかという実態に驚かされる毎日でありました。実際の1年間の松田病院での研修録を記載させていただきます。肛門疾患手術 126 例、上部消化管内視鏡 283 例、下部消化管内視鏡 329 例、大腸癌手術 32 例、胃癌手術 5 例、一般外科手術 15 例でありました。さらに外来化学療法や、学会活動なども活発に行っております。最近、特に松田病院の肛門手術に関しては回転率の良さが印象的です。また患者のニーズに可能な限り答えうる手術を目指し、実践していることがとても勉強になりました。手術の際、松田院長は常々こう指導されます。『お尻を見ると同時に出来上がりを意識すること、切る前にデザインを強く頭でイメージすること』。当然『お尻』は人によって千差万別であり、このイメージトレーニングを反芻することが大切であると強く感じております。今後、さらに精進を積んで、松田病院での貴重な経験を消化管・一般外科あるいは地域の医療の中で生かせるよう努力していく所存です。

ハンガリー ペーチ大学留学報告

石橋敬一郎

今回、埼玉医科大学教員短期留学制度により、平成 22 年 3 月 12 日から 6 月 3 日までハンガリー ペーチ大学 外科へ短期留学をさせていただきました。

Pécs University は、ハンガリーの首都である Budapest より約 250km 南、クロアチアとの国境まで約 30km に位置する人口約 17 万人の Pécs 市に位置しています。Budapest からは車か電車で約 2-3 時間。本年はヨーロッパ文化都市 (Capital of culture) にも選ばれ、観光客を迎えるためか、町中道路工事が行われており、関連イベントで、いろいろなところでコンサート等が行われておりました。病院はいくつかに分かれていましたが、私が留学した外科のユニットは築 50 年という、古い建物にあり (今年秋から一時閉鎖して、新病等を建てるそうです)、エレベーターも途中でよく止まり、15 分くらい閉じ込められてしまうことはよくある建物でした。外科には Horváth Örs Péter 教授をはじめ staff は約 20 名、研修医を含めると 30 名くらいの大医局で、外科専用の手術室 (病棟の横にある) を 4 つ持っていて、毎日 10 症例くらいの手術を行っておりました。

朝 8 時からの症例検討に参加、このカンファレンスの机の配置はコの字型になっており、教授が真ん中。序列順に時計回りに座る席は決まっておりました。ちなみに私がゲストということで、毎日必ず教授の隣の席でした。教授の病棟回診に同行し、その後、主に、Horváth 教授の手術の第一助手または第二助手をするのが日課となりました。このため、留学前は自分の専門である、大腸疾患の勉強をと思っていましたが、Horváth 教授は上部消化管の専門家であり、必然と上部消化管の手術を多く経験することとなりました。

教授をはじめ、staff の先生は、ほとんど英国、ドイツ、オーストリアに数年間の臨床での留学経験があり、手術に関しては、欧米で行われている標準的な手術が経験できたと考えております (癌の手術であるとリンパ節郭清に対する考え方が欧米と日本では違い、この点については参考となることはありませんでしたが)。経験できた手術症例は約 70 例、食道亜全摘、胃全摘、肝切除から直腸前方切除まで幅広く経験することができました。消化管再建は、現在は日本ではほとんど行われていない、手縫い吻合がほとんどで、初心に戻れる感じでした。

Staff の先生方は非常に気を遣ってくださり、特に Horváth 教授には、4 月末には、クロアチアのドゥブロブニクで行われた、中央ヨーロッパ外科学会に同行させていただいたり、毎週末何らかのイベントを用意していただき、仕事の面だけでなくハンガリーを十分満喫することができました。食事に関しては、アルコールを含めて

物価は安く、短期であれば問題ないのですが、魚料理がなく（川魚はあります。Budapest のような都会では問題ないかと思いますが）、2 ヶ月をすぎると日本の食事が恋しくなりましたが、普通に生活するには問題はありませんでした。普通の商店では英語が通じないところもありましたが（ドイツ語の方が通じるところが多いです）、Pécs University 自体に海外からの学生が増えてきているためでしょうか、外国人が行くようなレストランなどでは十分英語が通じました。

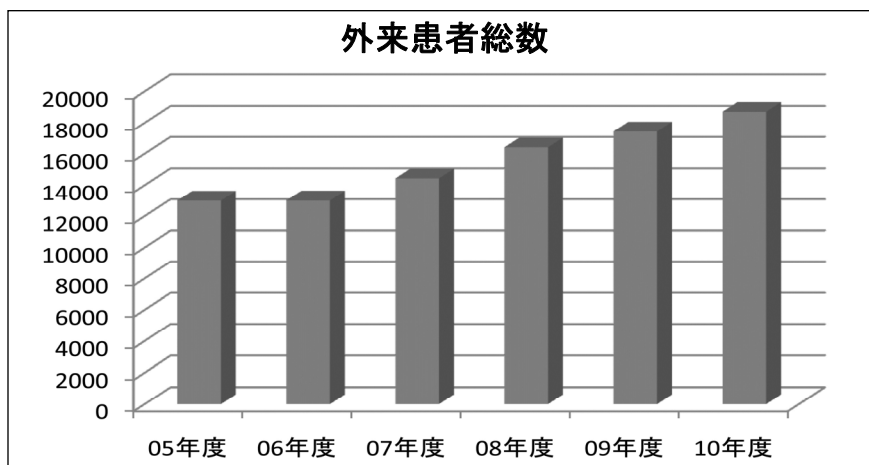
3 ヶ月と短期留学で、今回研究テーマを十分研究できませんでしたが、それ以外に多くの手術を経験できたこと、ヨーロッパの病院で臨床経験ができたこと、ヨーロッパで生活をしたことは、今後の人生で必ず役立つ経験ができたと考えております。最後に、このような留学制度を作っていただきました、丸木理事長、山内学長、国際交流センター前野村センター長、松本センター長、辻准教授、留守中をカバーしていただいた総合医療センター消化管・一般外科の石田教授をはじめとする、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます、報告とさせていただきます。



診療実績

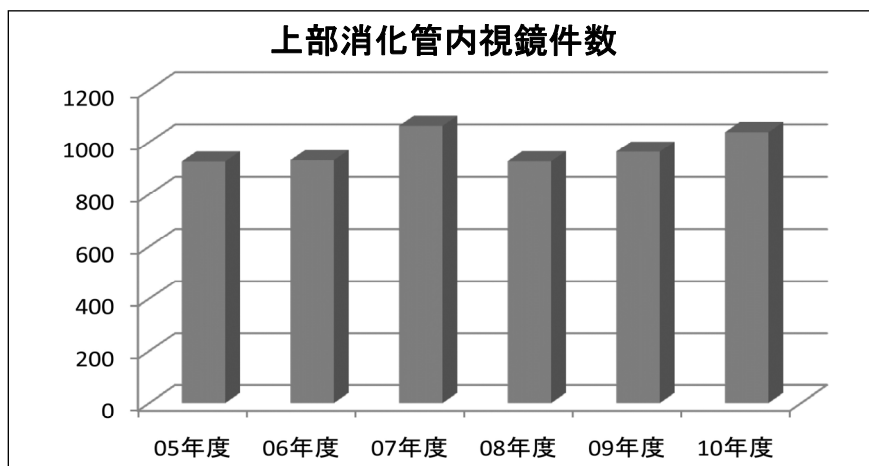
1) 外来

(ア) 外来患者総数



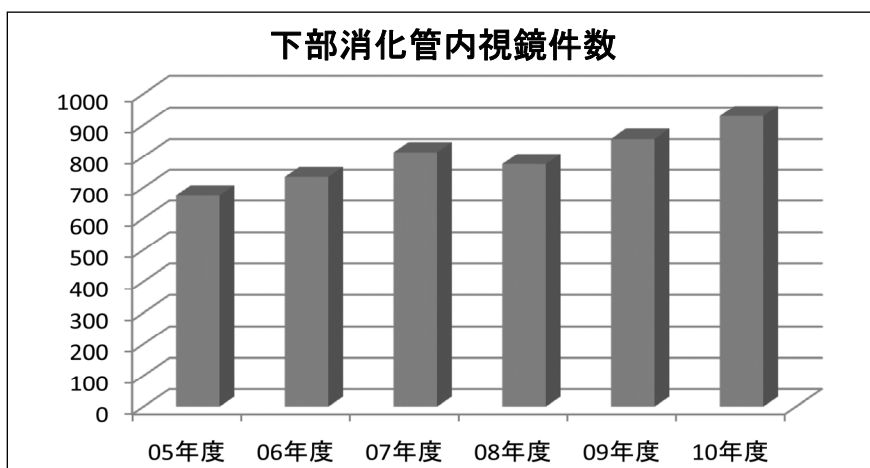
05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
13000	13008	14444	16413	17442	18718

(イ) 上部消化管内視鏡件数



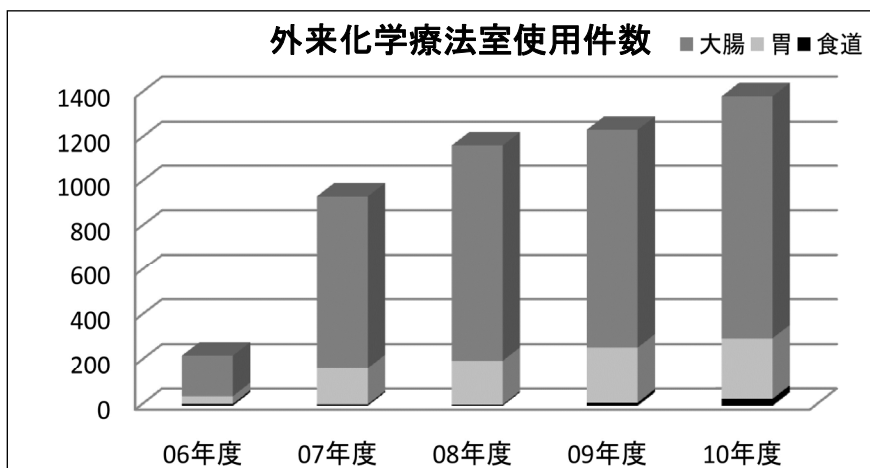
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
件数	925	930	1063	926	963	1039
EMR・ESD	3	6	6	10	5	0
PEG	7	11	25	34	39	32
ブジー	1	10	2	3	5	6

(ウ) 下部消化管内視鏡件数



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
件数	675	734	814	776	857	929
ポリペク	112	68	36	46	41	36
EMR	13	52	80	72	87	98

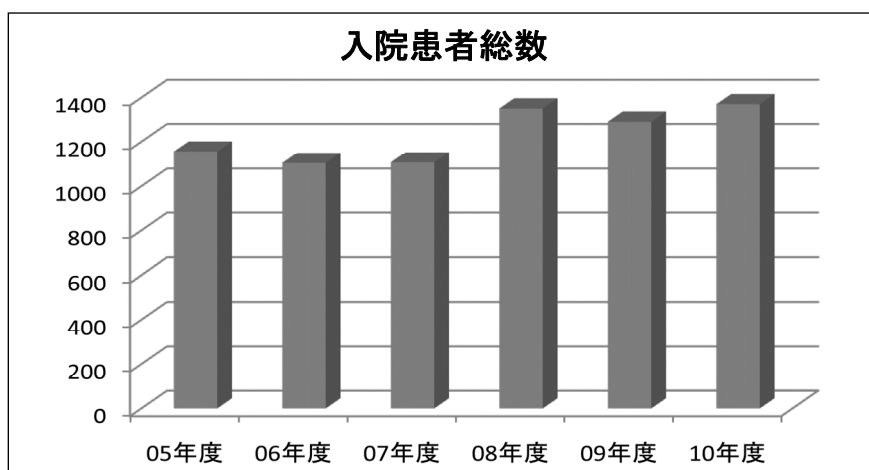
(エ) 外来化学療法室使用件数



	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
大腸	183	770	969	979	1087
胃	34	163	197	247	271
食道	8	6	5	14	31

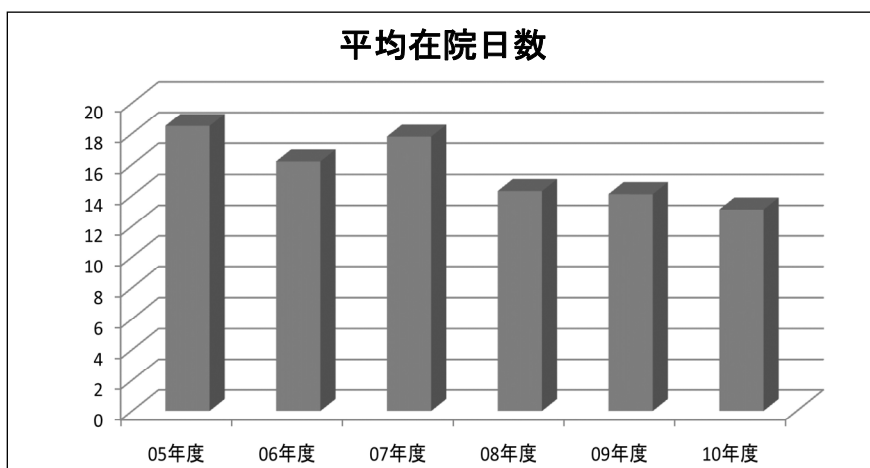
2) 入院

(ア) 入院患者総数



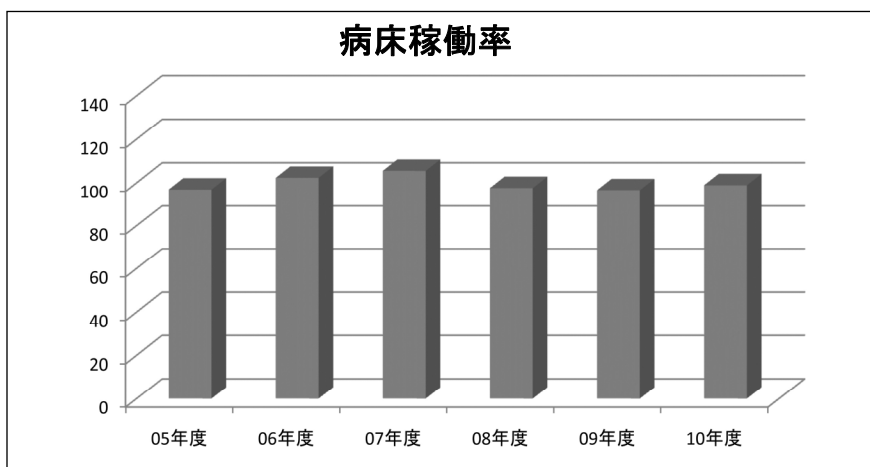
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
入院患者総数	1156	1104	1107	1252	1289	1421
(1) 食道癌	37	68	95	116	127	123
(2) 胃癌	154	154	169	280	282	272
(3) 大腸癌	206	379	265	335	362	390
(4) 潰瘍性大腸炎	10	7	7	8	9	12
(5) クロウン病	14	10	10	6	3	13
(6) 急性虫垂炎	87	68	83	71	90	87
(7) 鼠径ヘルニア	107	129	110	112	115	102
(8) 内痔核	9	17	10	4	45	79

(イ) 平均在院日数



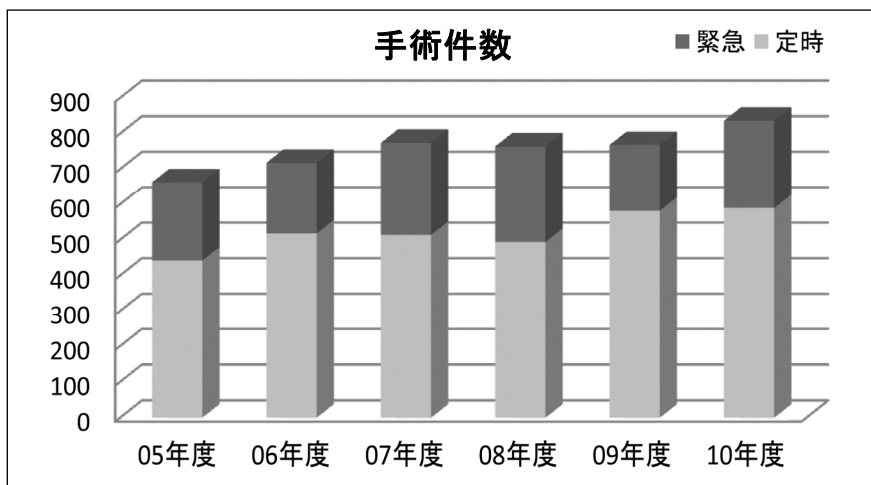
05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
18.5	16.2	17.8	14.3	14.1	13.1

(ウ) 病床稼働率



05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
96.9	102.3	105.5	97.6	96.6	98.9

(エ) 手術



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
(1) 食道癌	10	22	28	19	16	13
(2) 胃癌	104	97	103	127	101	96
(3) 結腸癌	136	126	90	104	86	96
(4) 直腸癌	36	37	62	44	43	58
(5) 潰瘍性大腸炎	2	1	2	4	4	1
(6) クロウン病	7	6	7	4	5	11
(7) 急性虫垂炎	61	77	71	81	74	81
(8) 鼠径ヘルニア	107	134	109	146	119	104
(9) 内痔核	9	13	10	1	46	75
全手術数	663	718	774	764	768	836
緊急	221	200	260	270	186	246
定時	588	518	514	494	582	590

2010 年度手術詳細

食道良性		2
食道狭窄	空腸瘻造設	1
食道裂孔ヘルニア	食道裂孔ヘルニア修復術	1
食道悪性	13	
食道癌	右開胸開腹食道亜全摘術	10
	左開胸開腹下部食道胃噴門部切除術	2
	胃瘻造設術	1
胃・十二指腸良性		17
胃潰瘍穿孔	単純閉鎖・大網充填術	5
十二指腸潰瘍	単純閉鎖・大網充填術	9
十二指腸潰瘍出血	開腹止血術	1
胃軸捻転症	腹腔鏡下胃固定術	1
胃動静脈奇形	残胃全摘術	1
胃悪性		103
胃癌	幽門側胃切除術	55 (鏡視下 7)
	噴門側胃切除術	4
	胃全摘術	22
	残胃全摘術	3
	右開胸胸部食道亜全摘噴門部切除術	3
	ESD	1
	胃空腸吻合術	1
	試験開腹術	2
	穿孔被覆術	1
	審査腹腔鏡	7
胃 GIST	胃部分切除術	2 (鏡視下 2)
胃悪性リンパ腫	幽門側胃切除術	2
小腸良性		12
上腸間膜動脈血栓症	小腸腸切除術	3
その他		9
小腸悪性		8
小腸 GIST	小腸部分切除術	2
空腸癌	小腸部分切除術	1
小腸悪性リンパ腫	小腸部分切除術	1
その他		4

イレウス		28
虫垂炎		81
	虫垂切除術	69 (鏡視下 2)
	回盲部切除術	9 (鏡視下 1)
	盲腸切除術	2
	ドレナージ術	1
炎症性腸疾患		12
潰瘍性大腸炎	大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術	1
クローン病	S 状結腸切除術	3
	結腸右半切除術	2
	回盲部切除術	3
	小腸切除術	2
	その他	1
遺伝性大腸疾患		3
家族性大腸腺腫症	大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術	3 (鏡視下 2)
大腸良性		29
	大腸憩室症	8
	その他	21
大腸悪性		150
結腸癌	回盲部切除術	10 (鏡視下 3)
	右結腸切除術	2 (鏡視下 1)
	結腸右半切除術	23 (鏡視下 1)
	拡大結腸右半切除術	3
	横行結腸切除術	8
	結腸左半切除術	2 (鏡視下 1)
	下行結腸切除術	2
	S 状結腸切除術	32 (鏡視下 3)
	高位前方切除術	4
	低位前方切除術	1
	結腸垂全摘術	1
	結腸部分切除術	4 (鏡視下 2)
	ハルトマン手術	2
	人工肛門造設術	2
直腸癌	高位前方切除術	12

	低位前方切除術	17
	超低位前方切除術	4
	ISR（括約筋間切除術）	3
	腹会陰式直腸切断術	6
	腹仙骨式直腸切断術	1
	ハルトマン手術	4
	経肛門的腫瘍摘出術	1
	人工肛門造設術	6
肛門良性		95
	内痔核	75
	痔瘻	17
	肛門ポリープ	1
	直腸脱	2
肛門悪性		4
	肛門管癌	2
	腹会陰式直腸切断術	2
	骨盤内臓全摘術	1
	人工肛門造設術	1
肝転移切除（同時切除含む）		12
	大腸癌肝転移	12
	肝切除術	12(同時性 5)
鼠径部ヘルニア		104
	鼠径ヘルニア	99
	大腿ヘルニア	5
腹壁癒痕ヘルニアほか		29
	腹壁癒痕ヘルニア	15
	白線ヘルニア	3
	臍ヘルニア	2
	閉鎖孔ヘルニア	2
	尿膜管遺残	5
	腹膜偽粘液腫	2
その他		154

(重複 6 例)

当科における診療・研究・教育

代表的疾患に対する治療方針

食道癌

癌の stage、年齢、全身状態を総合的に評価し、治療法（内視鏡、手術、化学療法、放射線療法など）を決定しています。当科における食道癌診療の特徴は、高度進行癌、高齢者、併存症の合併率が高い患者さんが多いため、化学放射線療法もしくは放射線単独療法の治療件数が非常に多いことがあげられます。近年の化学放射線療法や栄養療法の進歩により、生存期間の延長が図られつつあり、さらなる成績の向上に努めています。手術治療は右開胸・3 領域郭清を原則としていますが、化学放射線治療後のサルベージ手術も行っています。

胃癌

早期胃癌には腹腔鏡補助下手術を行っています。進行胃癌では開腹による手術を原則としていますが、局所進行胃癌には正確な staging のために審査腹腔鏡を行ったうえで治療法を決定し、術前後の化学療法を含めた集学的治療による治療成績の向上に努めています。また、高度進行胃癌に対しては「ドセタキセル+シスプラチン+S-1 併用術前化学療法」の多施設共同臨床試験にも参加しております。根治手術不能な進行癌に対する標準的治療は確立されていないため、十分なインフォームドコンセントを行ったうえ、集学的治療の一環としての姑息手術、減量手術などの観血的治療や抗癌剤治療などの選択肢の中から、最適な治療法を単独あるいは組み合わせで行っています。切除不能・再発胃癌に対する化学治療は S-1+シスプラチン療法が標準レジメンですが、高齢者に対する安全性、有効性が確立されておらず、当科で計画した「高齢者における切除不能進行胃癌に対する S-1+レンチナン併用療法の第 II 相試験」のような新たな試みも行っています。

大腸癌

結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術に代替し得る小切開手術（創の長さ：5-7cm）はすでに 300 例を超える経験があります。小切開手術は創痛が少なく、整容性にすぐれ、手術時間が腹腔鏡補助下手術より遥かに短縮でき、術後回復も早い点が利点であり、治癒切除可能な大部分の結腸癌に対し行うことができます。現在、stage I /Ⅲが疑われる進行結腸癌に対しては、小切開手術を第 1 選択としています。また、stage I まで、あるいは腫瘍径が小さいより進行した結腸癌が疑われる場合には、単孔式腹腔鏡補助下大腸切除を導入しています。臍周囲に弧状切開をおく当科で独自に考案した方法ですが、安全性にすぐれ、現在のところ満足が行く成績が得られています。歯状線近くの下部直腸進行癌に対しても根治性を損なうことなく肛門を温存する超低位前方切除術あるいは括約筋間切除術も積極的に取り入れており、患者さんの満足度も高いと考えております。近年の化学療法の著しい進歩により、

stage IVあるいは再発大腸癌の治療成績は飛躍的に向上しています。FOLFOX (XELOX)、FOLFIRI 療法に適宜分子標的薬を併用しています。全国的にみて、外科系診療科のなかでは当科の治療件数はきわめて多く、新知見を内外に発信しています。最近では化学療法後の肝転移切除例も増加しています。癌治療や外科感染症に関する多くの多施設共同臨床試験に参加、あるいは当科独自に計画し、標準化されていない治療法に関し、常に質の向上を目指しています。

岩間客員教授の着任以降、当科が家族性大腸腺腫症の東日本における患者会の事務局になっており、家族性大腸腺腫症の患者・家族の外来受診が増加しつつあります。密生型に対しては大腸全摘・直腸粘膜切除、回腸囊肛門吻合、あるいは回腸囊肛門管吻合などの標準術式を腹腔鏡補助下で行っています。

炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎、クローン病に対する内科的治療抵抗症例、緊急症例は当科で診療しています。潰瘍性大腸炎に対しては家族性大腸腺腫症と同様に肛門温存大腸全摘術を、クローン病に対しては病変に応じて腸管の切除や狭窄形成術などを行っています。

肛門疾患

肛門疾患の大半の痔核に対する簡便で安全な ALTA 硬化療法が保険収載され、2009 年から当科でも導入しています。当院の特性上様々な併存疾患を有する症例にも施行していますが、重篤な合併症もなく良好な成績を得ています。この治療は、日本大腸肛門病学会の認定施設で修練した医師が、内痔核治療法研究会で認定された一定の知識と技術を習得して行います。当院の属する川越比企医療圏では ALTA 療法の認定施設は当科のみです。

穿孔性腹膜炎

胃・十二指腸潰瘍穿孔に対しては、術前の臨床所見や CT での腹水量から治療方針を決定しています。大部分の手術症例では低侵襲性手術としての小切開手術を選択しています。予後不良な大腸穿孔に対しては、迅速かつ確実な手術に心がける一方、SSCG (Surviving sepsis campaign guidelines) 準拠した集中治療のほかに、重症例ではポリミキシン B 固定化カラムによる直接血液灌流法やリコンビナント・トロンボモジュリンの投与などを含めた集学的治療を行い、予後の改善に努めています。

鼠径ヘルニア

原則的に tension free 法を採用し、外鼠径ヘルニアには Mesh plug 法、Lichtenstein 法、内鼠径ヘルニアには UHS (PHS) 法などを行っています。現在は、火曜日入院、水曜日手術、土曜日退院の 3 泊 4 日のパスで行っておりますが、今後は、1 泊 2 日あるいは希望があれば日帰り手術も行うべく鋭意準備を進めています。

研究

当科は、大学病院として、また地域がん診療拠点病院としての責務を果たすべく、消化器癌の臨床および基礎研究にも熱意を注いでおります。当科が発足以来、食道癌、胃癌、大腸癌の診療を通じて蓄えられた貴重な臨床的データと、患者様からインフォームドコンセントを経て得られた貴重な検体を用いて、研究成果において新しい知見が得られては、積極的に国内外の学会や論文を通じて発表しております。消化器癌の化学治療においては、分子標的治療薬の開発に伴い、今後ますます個別化治療の必要性が唱えられる中で、当科では、遺伝子レベルの研究を迅速にすすめる体制づくりができており、発癌に関わる遺伝子群の探索から始まり、癌関連遺伝子の遺伝多型の解析、抗癌剤の治療効果予測因子となる遺伝子群や予後因子となる遺伝子群の検索など、癌の診断や治療にフィードバックできる臨床と基礎の架け橋になるような研究に取り組んでおります。さらに当科では、このような研究を通じて、研究マインドをもった優秀な臨床医の育成にも積極的に努めており、外科医が手術のみならず、手術で得られた標本からも癌撲滅に向けて取り組む姿勢をみて、多くの若い先生が集い、埼玉県の癌診療、癌研究のみならず、世界に向けて発信していけるよう努めてまいります。

教育

本学の医学部学生臨床実習は5年生が5～6人1組の実習組ごとに各科をローテーションします。消化器外科は各組の学生が附属病院または国際医療センターと、総合医療センターに分かれて実習しています。

当科には常に2～3名の学生が実習することとなり、各学生は上部消化管1チームと下部消化管2チームに1名ずつ配属され、手術を中心に検査、カンファレンス、回診などに参加してもらい、チームの一員として実地臨床の経験を積めるよう配慮しています。各学生とも印象的な手術・経験と出会えたようです。講義としては、結紮・鏡視下手術トレーニングボックスのほか、手術ビデオ供覧、課題解説・総括のほか、肝胆膵・小児外科小高准教授による小児外科講義、岩間毅夫客員教授の家族性大腸癌講義が行われています。

教育・カンファレンス

クリニカルカンファレンス

日時	チーム	題名
2010/5/12	紫	当科における横小切開結腸手術の検討
2011/1/28	黄	胃癌取扱い規約改定の point と治療ガイドライン
2011/2/2	紫	人工肛門閉鎖法に関する randomized controlled trial (RCT) (中間報告) 閉鎖 vs.開放 (環状縫合)
2011/3/9	緑	当科における Stage IV大腸癌の治療成績

抄読会

- 2010/4/7 田島 Comparison of internal sphincterotomy with topical diltiazem for post-hemorrhoidectomy pain relief: a prospective randomized trial.
J Postgrad Med 55:22-26, 2009
- 2010/4/13 石井 Long-term mortality after gastric bypass surgery.
N Engl J Med 357:753-761, 2007
- 2010/4/28 本城 Comparison of dopamine and norepinephrine in the treatment of shock.
N Engl J Med 362:779-789, 2010
- 2010/5/19 三浦 Influence of histamine receptor antagonists on the outcome of perforated appendicitis: analysis from a prospective trial.
Arch Surg 145:143-146, 2010
- 2010/5/26 伊藤 Hydrocortisone therapy for patients with septic shock.
N Engl J Med 358:111-124, 2008
- 安藤 Adipose-derived mesenchymal stem cells as stable source of tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand (trail) delivery for cancer therapy.
Cancer Res 70:3718-3729, 2010
- 2010/6/9 近谷 Water-soluble contrast medium (gastrografin) value in adhesive small intestine obstruction (ASIO): a prospective, randomized, controlled, clinical trial.
World J Surg 32:2293-2304, 2008
- 2010/6/30 平岡 Surgery of recurrent parastomal hernia: direct repair or relocation?
Colorectal Dis 12:681-686, 2010
- 2010/10/13 橋本 Gentamicin-collagen sponge for infection prophylaxis colorectal surgery.
N Engl J Med 363:1038-1049, 2010

- 2010/10/20 石橋 Comparative outcome between chemoradiotherapy and lateral pelvic lymph node dissection following total mesorectal excision in rectal cancer.
Ann Surg 246:754-762, 2007
- 2010/10/27 隈元 Detection of occult metastasis in sentinel lymph node from colon cancer patients by K-ras mutation peptide nucleic acid clamp PCR.
Ann Surg 251:1087-1091, 2010
- 2010/11/10 岡田 High concordance of KRAS status between primary colorectal tumors and related metastatic sites: implications for clinical practice.
Oncologist 13:1270-1275, 2008
- 2010/11/24 大澤 A surgery of abnormalities in the colon and rectum in patients with haemorrhoids.
BMC Gastroenterol 10:74, 2010
- 傍島 Aspirin use and survival after diagnosis of colorectal cancer.
JAMA 302 :649-658, 2009
- 2010/12/1 桑原 Randomized, multicenter trial of antibiotic prophylaxis in elective colorectal surgery.
Arch Surg 142:657-661, 2007
- 2011/1/5 安藤 Aurora-A is essential for the tumorigenic capacity and chemoresistance of colorectal cancer stem cells.
Cancer Res 70:4655-4665, 2010
- 2011/1/26 田島 Comparison of clinical effects between warm water spray and sitz bath in post-hemorrhoidectomy period.
J Gastrointest Surg 13:1274-1278, 2009

- 2011/2/7 石畝 Extensive intraoperative peritoneal lavage as a standard prophylactic strategy for peritoneal recurrence in patients with gastric carcinoma.
Ann Surg 250:242-246, 2009
- 2011/2/9 天野 Prolonged postoperative ileus-definition, risk factors, and predictors after surgery.
World J Surg 32:1495-1500, 2008
- 2011/3/9 小野 Evidence-based management of pain after haemorrhoidectomy surgery.
Br J Surg 97:1155-1168, 2010
- 2011/3/9 久保田 Closure of the abdominal midline fascia: meta-analysis delineates the optimal technique.
Am Surg 67:421-426, 2001

2010年度 業績集

著 書

1. 宮崎達也, 石田秀行.
食道がん化学療法 of 患者教育と看護.
食道がん標準化学療法 of 実際 (桑野博行編)
金原出版 : 40-45, 2010

総説・解説

1. 隈元謙介, 石田秀行.
救急外来当直医必携 症状別の初療と診断のすすめ方 肛門出血.
消化器外科 33 : 704-405, 2010
2. 芳賀紀裕, 石田秀行.
必読 セカンドオピニオン 膵径部ヘルニア.
外科 72 : 1462-1467, 2010
3. 岩間毅夫, 石田秀行.
データベースの現状と問題点.
大腸癌 FRONTIER 3 : 104-108, 2010
4. 石田秀行, 石橋敬一郎, 山口研成.
高齢者大腸癌化学療法時の注意点と対策.
外科 72 : 267-271, 2010
5. 芳賀紀裕, 石田秀行.
胃内容排出時間.
日本気管食道学会誌 62 : 50-52, 2011
6. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
大腸癌における分子標的治療 切除不能大腸癌における分子標的治療.
外科 73 : 245-251, 2011
7. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
FOLFOX 療法の治療効果予測因子の探索 (TS, ERCC1 など).
日本臨床 69 : 4947-499, 2011 (4月1日以降掲載)
8. 岩間毅夫, 石田秀行.
遺伝性大腸癌: 家族性大腸腺腫症, *MUTYH* 関連ポリポーシス, およびリンチ症候群.
日本臨床 大腸癌—最新の研究動向 69 : 59-64, 2011 (4月1日以降掲載)

学術論文（英文）

原著

1. Ishida H, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Yokoyama M, Kumamoto K, Ishibashi K, Itoyama S.
Curative colectomy via minilaparotomy approach without utilizing specific instruments.
Tech Coloproctol 14:153-159, 2010
2. Ishida H, Ishiguro T, Miyazaki T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N.
Distal gastrectomy via minilaparotomy for non-overweight patients with T1N0-1 gastric cancer: initial experience of 30 cases.
Int J Surg 8:643-647, 2010
3. Ohsawa T, Ishida H, Kumamoto K, Nakada H, Yokoyama M, Okada N, Ishibashi K, Haga N.
Resection of stage 0/I colon cancer via a circumferential periumbilical skin incision: relevance to single-incision laparoscopic surgery.
Tech Coloproctol 14:311-315, 2010
4. Ishida H, Okada N, Ishibashi K, Ohsawa T, Kumamoto K, Haga N.
Single-incision laparoscopic-assisted surgery for colon cancer via a periumbilical approach using a surgical glove: initial experience with 9 cases.
Int J Surg 9:150-154, 2011
5. Ishida H, Ishiguro T, Ishibashi K, Ohsawa T, Kuwabara K, Okada N, Miyazaki T.
Impact of prior abdominal surgery on curative resection of colon cancer via minilaparotomy.
Surg Today 41:369-76, 2011
6. Ishida H, Ishiguro T, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N.
Curative resection of transverse colon cancer via minilaparotomy.
Int Surg 96:6-12, 2011

7. Ishida H, Ishiguro T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Miyazaki T, and Haga N.
Experience of distal gastrectomy via minilaparotomy with laparoscopic-assistance for non-overweight patients with T1N0-1 gastric cancer.
Int Surg (in press)

8. Ishida H, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N, Yokoyama M, Nakada H, and Gonda T.
Oncological outcome of stages II/III colon cancer treated via minilaparotomy.
Int Surg (in press)

症例報告

1. Ishibashi K, Chika N, Miyazaki T, Yokoyama M, Ishida H, Matsuda T, Morozumi M, Yamada T.
Spermatic cord metastasis from colon cancer: report of a case.
Surg Today 41:418-21, 2011

学術論文（和文）

原著

1. 外間尚子, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 岡田典倫, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行, 馬場一憲, 関 博之.
妊娠中の急性虫垂炎の地域性に関する検討.
埼玉県医学会雑誌 45 : 110-112, 2010
2. 幡野 哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 中田 博, 横山 勝, 芳賀紀裕, 石田秀行.
MRI を用いた下部直腸癌の転移陽性側方リンパ節検索の試み.
癌と化学療法 12 : 2297-2299, 2010
3. 傍島 潤, 芳賀紀裕, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道扁平上皮癌における化学放射線療法の治療効果と ERCC-1, TS 蛋白発現の検討.
癌と化学療法 12 : 2394-2396, 2010
4. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 横山 勝, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 森 隆, 山田博文, 三浦一郎, 田丸淳一, 糸山進次, 石田秀行.
切除不能・再発大腸癌における一次治療 mFOLFOX6 療法の治療効果と TS/ERCC-1 蛋白発現の検討.
癌と化学療法 12 : 2532-2535, 2010
5. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦, 幡野 哲, 外間尚子, 石井正嗣, 横山洋三, 山本 梓, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
減量・休薬基準を明記した mFOLFOX6 療法の試み.
癌と化学療法 12 : 2588-2590, 2010
6. 石井正嗣, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 横山 勝, 石田秀行.
大腸癌卵巣転移による Pseudo-Meigs' 症候群の検討.
癌と化学療法 12 : 2591-2593, 2010

7. 桑原公亀, 石畝 亨, 大澤智徳, 傍島 潤, 幡野 哲, 天野邦彦, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage 0, I 結腸癌における小切開アプローチ法による結腸癌根治術の手術成績の検討.
癌と化学療法 12 : 2601-2604, 2010
8. 天野邦彦, 隈元謙介, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 猪熊滋久, 中田 博, 横山 勝, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Perianal Paget's Disease 5 例の手術成績と免疫組織学的検討.
癌と化学療法 12 : 2653-2655, 2010
9. 桑原公亀, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸穿孔術後の在院死を予測する因子のロジスティック回帰分析.
日本外科感染症学会雑誌 8 (in press)
10. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦, 幡野 哲, 外間尚子, 田島雄介, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 本城裕章, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
結腸癌内視鏡的切除後の単孔式結腸切除術.
Progress of Digestive Endoscopy (4 月 1 日以降掲載)

症例報告

1. 田島雄介, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 近 範泰, 大澤智徳, 横山 勝, 芳賀紀裕, 櫻山 浩, 石田秀行.
腹腔動脈周囲リンパ節転移を伴った結腸癌異時性副腎転移の 1 例.
日本外科系連合学会誌 35 : 787-792, 2010
2. 大澤智徳, 隈元謙介, 竹内幾也, 石畝 亨, 幡野 哲, 天野邦彦, 横山 勝, 桑原公亀, 石橋敬一郎, 岩間毅夫, 芳賀紀裕, 石田秀行, 大西 清, 牛尼美年子, 吉田輝彦.
大腸全摘前のスクリーニング検査で発見された家族性大腸線種症に合併した甲状腺乳頭癌の 1 例.
日本大腸肛門病学会雑誌 63 : 426-433, 2010

3. 山本 梓, 石橋敬一郎, 田島雄介, 幡野 哲, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 横山 勝, 芳賀紀裕, 石田秀行.
S 状結腸癌術後孤立性腹膜外転移を切除し得た 1 例.
癌と化学療法 12 : 2644-2646, 2010
4. 石井正嗣, 辻 美隆, 近 範泰, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
横行結腸癌・多発肝転移に mFOLFOX6+bevacizumab 療法が著効した家族性大腸腺腫症の 1 例.
埼玉県医学会雑誌 45 : 302-306, 2011
5. 近 範泰, 辻 美隆, 石橋敬一郎, 石井正嗣, 大澤智徳, 田島雄介, 桑原公亀, 岡田典倫, 横山 勝, 隈元謙介, 権田 剛, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌術後の経過観察中に血清 CA19-9 高値を呈した巨大肝嚢胞の 1 例.
埼玉県医学会雑誌 45 : 307-310, 2011

その他

1. 岩間毅夫
家族性腫瘍. 新「名医」の最新治療 2011.
週刊朝日増刊号, 朝日新聞社 166, 2010
2. 石田秀行
大腸癌手術におけるドレーンのエビデンス.
平成 22 年度消化器外科学会 教育セミナーテキスト
3. 石田秀行
ポリポース総論.
第 13 回家族性腫瘍カウンセラー 養成セミナーテキスト

学会・研究会発表

国際学会

1. Ohsawa T, Ishiguro T, Okada N, Ishibashi K, Haga N, Ishida H.
Minilaprotomy approach to perforated duodenal ulcer.
12th World Congress of Endoscopic Surgery. Washington, D.C., USA, April 14-17, 2010 (Plenary session)
2. Ohsawa T, Ishiguro T, Okada N, Haga N, Ishida H.
Pattern of arterial branches crossing the superior mesenteric vein: its relevance to laparoscopic right hemicolectomy.
12th World Congress of Endoscopic Surgery. Washington, D.C., USA, April 14-17, 2010 (Poster)
3. Ishida H, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Ishibashi K, Haga N.
Oncological outcome of stage II/III colon cancer treated via minilaparotomy approach.
12th World Congress of Endoscopic Surgery. Washington, D.C., USA, April 14-17, 2010 (Poster)
4. Ohsawa T, Ishida H, Hashimoto D.
Curcumferential periumbilical incision approach for the resection of T1N0 and Tis colon cancer: relevance to single port laparoscopic surgery (SILS).
12th World Congress of Endoscopic Surgery. Washington, D.C., USA, April 14-17, 2010 (Poster)
5. Ishida H, Ishiguro T, Okada N, Ishibashi K, Haga N.
Distal gastrectomy with laparoscopic assistance for non-overweight patients with T1N0 gastric cancer.
12th World Congress of Endoscopic Surgery. Washington, D.C., USA, April 14-17, 2010 (Poster)

6. Tajima Y, Ishibashi K, Kuwabara K, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Study of the curative resection for colon cancer in stage 0 and I as via a minilaparotomy approach.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
7. Tajima Y, Ishibashi K, Kuwabara K, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Relationship between the size and metastasis of hepatic lymph nodes in patients with synchronous liver metastasis of colorectal cancer.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
8. Ishibashi K, Okada N, Tajima Y, Ishiguro T, Ohsawa T, Yokoyama M, Kumamoto K, Tsuji Y, Haga N, Sano M, Yamada H, Ishida H.
Polymorphisms of GSTP1, GSTT1, GSTM1, MTHFR, TS, ERCC1 and ERCC2 in metastatic colorectal cancer treated by firstline mFOLFOX6 chemotherapy.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
9. Miura E, Ishibashi K, Tajima Y, Sobajima J, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Significance of hepatic lymph node metastasis in patients with synchronous unresectable liver metastasis of colorectal cancer.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
10. Hatano S, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Are NCCN and ESMO guidelines appropriate for the management of stage II colon cancer?
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)

11. Hatano S, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Ishiguro T, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Predictin of lateral lymph node metastasis by magnetic resonance imaging.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
12. Kuwabara K, Haga N, Ishiguro T, Hatano S, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Ishida H.
Evaluation of the prognostic factors for non-curative gastric cancer.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
13. Kuwabara K, Kumamoto K, Ishiguro T, Ohsawa T, Okada N, Ishibashi K, Haga N, Ishida H.
Pattern of recurrence and prognosis in patients with stage II/III colon cancer treated via the minilaparotomy approach.
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, August 25-27, 2010 (Poster)
14. Miyazaki T, Ishibashi K, Hokama N, Ishiguro T, Sohda M, Tanaka N, Sakai M, Suzuki S, Sano A, Nakajima M, Fukuchi M, Kato H, Kuwano H, Ishida H.
Treatment strategy of esophageal foreign bodies.
12th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus, Kagoshima, Japan September 2-5, 2010 (Poster)
15. Ishibashi K, Ishida H, Tajima Y, Okada N, Ohsawa T, Kumamoto K, Haga N.
Singl-incision laparoscopically-assisted surgery for colon cancer via periumbilical approach.
2010 Korean Surgical International Symposium, Seoul, Korea, November 18-21, 2010 (Oral)
16. Ito T, Honjyou H, Amano K, Hatano S, Ishiguro T, Orsawa T, Okada N, Kumamoto K, Ishibashi K, Haga N, Ishida H.
The risk factor of anastomosis leakage in rectal cancer and the clinical significance of the use of closed drain system.
The 12th China-Japan-Korea Colorectal Cancer Symposium, Shanghai, China, December 4-5 2010 (Oral)

17. Amano K, Hatano S, Ishibashi K, Ohsawa T, Okada N, Kumamoto K, Haga N, Ishida H.
Selection of high-risk stage II colon cancer.
The 12th China-Japan-Korea Colorectal Cancer Symposium, Shanghai, China,
December 4-5 2010 (Oral)

国内学会・研究会

1. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 桑原公亀, 石田秀行.
標準化と均てん化を目指した地域がん診療拠点病院における FOLFOX/FOLFIRI
共通パスの試み.
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.4.8-10 (パネルディスカッ
ション)
2. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 石田秀行.
大腸穿孔の予後予測に有用な重症度 score の検討.
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.4.8-10 (口演)
3. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 横山洋三, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫,
宮崎達也, 横山 勝, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage II 大腸癌の高リスク因子についての選別と治療戦略.
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.4.8-10 (口演)
4. 大澤智徳, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 岡田典倫, 天野邦彦, 幡野 哲, 隈元謙介,
芳賀紀裕, 横山 勝, 岩間毅夫, 石田秀行.
Stage II/III 大腸癌における閉塞・穿孔症例の予後に与える影響.
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.4.8-10 (口演)
5. 傍島 潤, 宮崎達也, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道扁平上皮癌治療前, 治療早期生検標本における予後因子としてのアポトー
シスインデックスの検討.
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.4.8-10 (口演)
6. 幡野 哲, 隈元謙介, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕,
石田秀行.
MRI を用いた下部直腸癌の転移陽性側方リンパ節検索の試み.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (シンポジウム)

7. 傍島 潤, 芳賀紀裕, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道扁平上皮癌における化学放射線療法の治療効果と TS/ERCC1 蛋白発現の検討.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
8. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 横山 勝, 隈元謙介,
芳賀紀裕, 森 隆, 山田博文, 三浦一郎, 田丸淳一, 糸山進次, 石田秀行.
切除不能・再発大腸癌における 1 次治療 mFOLFOX6 療法の治療効果と
TS/ERCC1 蛋白発現の検討.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
9. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦,
幡野 哲, 外間尚子, 田島雄介, 石井正嗣, 横山洋三, 山本 梓, 隈元謙介,
芳賀紀裕, 石田秀行.
減量・休薬規準を明記した mFOLFOX6 療法の試み.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
10. 石井正嗣, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 大澤智徳, 横山 勝, 岡田典倫, 隈元謙介,
芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌卵巣転移による pseudo-Meigs'症候群の検討.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
11. 桑原公亀, 石畝 亨, 大澤智徳, 傍島 潤, 幡野 哲, 天野邦彦, 岡田典倫,
隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage0, I 結腸癌に対する小切開アプローチ法結腸癌根治術の検討.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
12. 山本 梓, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 田島雄介, 幡野 哲, 横山 勝, 隈元謙介,
辻 美隆, 芳賀紀裕, 石田秀行.
興味ある経過をたどった S 状結腸癌術後孤立性腹膜外転移の 1 例.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)
13. 天野邦彦, 隈元謙介, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 猪熊滋久, 中田 博,
横山 勝, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Perianal Paget's disease 5 例の手術成績と免疫組織学的検討.
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11 (口演)

14. 田島雄介, 石橋敬一郎, 幡野 哲, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 辻美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
大腸癌切除不能同時性肝転移における肝所属リンパ節転移の臨床的意義.
第 73 回大腸癌研究会, 奄美, 2010.7.2 (示説)
15. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 幡野 哲, 石畝 亨, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌穿孔症例の短期および長期予後と治療上の問題点.
第 73 回大腸癌研究会, 奄美, 2010.7.2 (示説)
16. 隈元謙介, 斎藤元伸, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 竹之下誠一, 石田秀行.
大腸癌における ING2 発現亢進を介した癌浸潤のメカニズム.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 010.7.14-16 (口演)
17. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 桑原公亀, 幡野 哲, 外間尚子, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
小切開手技を応用した SILS colectomy.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16 (口演)
18. 幡野 哲.
切除不能・再発大腸癌に対する 1 次治療 mFOLFOX6 療法に対する bevacizumab 上乗せ効果.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16 (示説)
19. 石橋敬一郎, 石畝 亨, 幡野 哲, 大澤智徳, 桑原公亀, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 辻 美隆, 石田秀行.
大腸癌肝転移症例における肝所属リンパ節径から転移診断は可能か.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16 (示説)
20. 芳賀紀裕, 宮崎達也, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
術前リスクを有する non-T4, Stage II, III 食道癌治療方針の検討.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16 (示説)

21. 桑原公亀, 芳賀紀裕, 石畝 亨, 幡野 哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
根治切除不能胃癌の最適な治療法と予後予測に関する検討.
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16 (示説)
22. 伊藤徹哉, 天野邦彦, 石畝 亨, 本城裕章, 石井正嗣, 山本 梓, 芳賀紀裕, 石田秀行, 長田久人, 大野仁司.
胃癌術後後腹膜出血に対し塞栓止血後十二指腸狭窄を続発した一例.
第 13 回埼玉県外科医会外科臨床問題検討会, さいたま, 2010.7.31 (口演)
23. 本城裕章, 芳賀紀裕, 伊藤徹哉, 平岡 優, 近谷賢一, 三浦恵美, 天野邦彦, 石畝 亨, 石田秀行.
食道癌術後に脾膿瘍を形成した 1 例.
第 818 回外科集談会, 東京, 2010.9.18 (口演)
24. 隈元謙介, 岡山洋和, 早瀬 傑, 小船戸康英, 佐藤 雄, 中村 泉, 大木進司, 石田秀行, 竹之下誠一.
消化器癌における MECA-79 の発現と臨床学的意義.
第 69 回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010.9.22-24 (示説)
25. 石畝 亨, 芳賀紀裕, 天野邦彦, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道類基底細胞癌 10 例の検討.
第 8 回日本消化器外科学会大会, 横浜, 2010.10.15-16 (示説)
26. 芳賀紀裕, 石畝 亨, 山本 梓, 石井正嗣, 天野邦彦, 幡野 哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
根治切除不能進行胃癌に対する化学後手術施行症例の検討.
第 8 回日本消化器外科学会大会, 横浜, 2010.10.15-16 (示説)
27. 外間尚子, 石橋敬一郎, 桑原公亀, 石畝 亨, 岡田典倫, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
DPC 制度における急性虫垂炎治療の医療経済学的検討.
第 8 回日本消化器外科学会大会, 横浜, 2010.10.15-16 (示説)

28. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 傍島 潤, 幡野 哲, 外間尚子, 桑原公亀, 大澤智徳, 田島雄介, 石井正嗣, 山本 梓, 天野邦彦, 石畝 亨, 天野邦彦, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
SILS 結腸切除における腸管切除・吻合のための切開創長と window size.
第 8 回日本消化器外科学会大会, 横浜, 2010.10.15-16 (示説)
29. 宮崎達也, 芳賀紀裕, 横山洋三, 石畝 亨, 浅尾高行, 石橋敬一郎, 桑野博行, 石田秀行.
巨大嚢胞性腫瘍の腹腔鏡手術におけるミニループリトラクターの有用性.
第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2010.10.18-20 (口演)
30. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 佐野元彦, 小松崎 健, 石田秀行.
外来化学療法の実状と問題点—効果的で患者に優しいがん治療を目指して.
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30 (口演)
31. 芳賀紀裕, 桑原公亀, 伊藤徹哉, 本城裕章, 天野邦彦, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
腹膜播種陽性胃癌症例の検討.
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30 (示説)
32. 堤 莊一, 石橋敬一郎, 中里健二, 保田尚邦, 平山 功, 内田信之, 細内康男, 浅尾高行, 西田保二, 石田秀行, 桑野博行.
大腸癌に対する Bevacizumab 治療継続の有効性・安全性の検討 第Ⅱ相試験(中間報告).
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30 (口演)
33. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
StageⅡ 結腸癌に対し欧米のガイドライン (ASCO, NCCN, ESMO) を用いることは妥当か?
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30 (口演)

34. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 幡野 哲, 天野邦彦, 外間尚子, 田島雄介, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6 の治療効果と大腸癌組織中 VEGF, FLT-1, KDR, DPD, PynPase 濃度の関係.
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30 (口演)
35. 石畝 亨, 伊藤徹哉, 本城裕章, 天野邦彦, 幡野 哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
切除可能な Stage II,III 食道癌における化学放射線療法の検討.
第 62 回日本気管食道科学会総会, 別府, 2010.11.4-5 (口演)
36. 芳賀紀裕, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 岩間毅夫, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症のデスマイド再発に関する遺伝子学的検討.
第 21 回日本消化器癌発生学会総会, 軽井沢, 2010.11.18-19 (示説)
37. 大澤智徳, 隈元謙介, 桑原公亀, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 竹内幾也, 岩間毅夫, 石田秀行, 大西 清, 牛尾美年子, 吉田輝彦.
家族性大腸線種症に発生した甲状腺癌の APC 遺伝子の 20 アミノ酸リピート数の検討 (自験例 2 例と本邦報告例の検討).
第 21 回日本消化器癌発生学会総会, 軽井沢, 2010.11.18-19 (示説)
38. 隈元謙介, 岡山洋和, 中村 泉, 大木進司, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行, 竹之下誠一.
胃癌における MECA-79 発現の臨床的意義.
第 21 回日本消化器癌発生学会総会, 軽井沢, 2010.11.18-19 (示説)
39. 本城裕章, 石橋敬一郎, 外間尚子, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
直腸切除における縫合不全危険因子と予防的閉鎖式ドレーン留置の意義.
第 23 回日本外科感染症学会総会, 東京, 2010.11.18-19 (口演)
40. 芳賀紀裕, 三浦恵美, 伊藤徹哉, 本城裕章, 天野邦彦, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
当科における消化管 GIST の検討.
第 72 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (ワークショップ)

41. 平岡 優, 隈元謙介, 大澤智徳, 幡野 哲, 岡田典倫, 桑原公亀, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
中毒性巨大結腸症を伴う潰瘍性大腸炎に対し大腸全摘・回腸囊肛門管吻合術を行った3例.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
42. 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
横小切開による結腸癌根治術の経験.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
43. 近谷賢一, 傍島 潤, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 石田秀行.
高齢者の4重複癌(前立腺癌, 悪性黒色腫, 肺癌, 大腸癌)の一例.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
44. 本城裕章, 石橋敬一郎, 石井正嗣, 田島雄介, 外間尚子, 幡野 哲, 天野邦彦, 桑原公亀, 石畝 亨, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
直腸前方切除における閉鎖式ドレーンの意義に関する検討.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
45. 伊藤徹哉, 石井正嗣, 近 範泰, 田島雄介, 幡野 哲, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
再発を繰り返した後腹膜脂肪肉腫の一例.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
46. 三浦恵美, 伊藤徹哉, 本城裕章, 天野邦彦, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
腺扁平上皮癌と類基底細胞癌が同一病変に存在する食道癌の1例.
第72回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23 (口演)
47. 田島雄介, 隈元謙介, 石井正嗣, 天野邦彦, 幡野 哲, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 辻 美隆, 芳賀紀裕, 岩間毅夫, 石田秀行.
当科で最近経験した肛門管扁平上皮癌の4例.
第65回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)

48. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 石畝 亨, 幡野 哲, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
75 歳以上高齢者の大腸癌 stageⅢの検討.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
49. 久保田将, 幡野 哲, 石畝 亨, 岡田典倫, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
結腸癌に対する小切開根治術 280 例の検討.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
50. 大澤智徳, 山口研成, 西村洋治, 八岡利昌, 田中洋一, 石田秀行, 赤木 究.
MLH1 V384D バリエントの大腸癌発症感受性に関する検討.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
51. 本城裕章, 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 幡野 哲, 天野邦彦, 外間尚子, 田島雄介, 石井正嗣, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 平岡 優, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
mFOLFOX6/FOLFIRI failure 後の cetuximab 治療成績.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
52. 石橋敬一郎, 岡田典倫, 石畝 亨, 石井正嗣, 田島雄介, 幡野 哲, 桑原公亀, 大澤智徳, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
FOLFOX/FOLFIRI 療法に Bevacizumab, Cetuximab は何を付与するのか?
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (パネルディスカッション)
53. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 幡野 哲, 天野邦彦, 外間尚子, 田島雄介, 石井正嗣, 本城裕章, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 平岡 優, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
右側結腸に対する単孔式腹腔鏡補助下手術の経験.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
54. 桑原公亀, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 石畝 亨, 幡野 哲, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
大腸癌穿孔と大腸憩室穿孔の比較検討.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)

55. 田島雄介, 石橋敬一郎, 石井正嗣, 石畝 亨, 桑原公亀, 大澤智徳, 岡田典倫, 横山 勝, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 辻 美隆, 岩間毅夫, 石田秀行.
高齢者切除不能大腸癌に対する mFOLFOX6/FOLFILI 療法の安全性と有効性.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
56. 幡野 哲, 石橋敬一郎, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
Stage II 結腸癌の high risk 症例の選別と術後補助化学療法を選択.
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27 (口演)
57. 橋本昌幸, 幡野 哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行.
カペシタビンによる吃逆が誘引となり気道粘膜下血腫で気管切開を要した 1 例.
第 28 回埼玉県外科集談会, さいたま, 2010.11.27 (口演)
58. 三浦恵美, 大澤智徳, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 芳賀紀裕, 石田秀行, 加藤真吾, 屋嘉比康治, 田丸淳一.
治癒切除し得た潰瘍性大腸炎合併 4 型直腸癌の 1 例.
第 28 回埼玉県外科集談会, さいたま, 2010.11.27 (口演)
59. 岡田典倫, 石橋敬一郎, 大澤智徳, 傍島 潤, 桑原公亀, 石畝 亨, 天野邦彦, 幡野 哲, 外間尚子, 田島雄介, 石井正嗣, 久保田 将, 近 範泰, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 平岡 優, 本城裕章, 隈元謙介, 芳賀紀裕, 石田秀行.
結腸癌内視鏡的切除後の SILS colectomy.
第 91 回消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2010.12.10-11 (口演)
60. 小野朋二郎, 隈元謙介, 天野邦彦, 幡野 哲, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 石田秀行.
当科における過去 10 年間の大腸非上皮性腫瘍の臨床病理学的検討.
第 74 回大腸癌研究会, 福岡, 2011.1.21 (示説)
61. 田島雄介, 石橋敬一郎, 岡田典倫, 土屋長二, 上野秀樹, 原 彰男, 遠藤正人, 石川文彦, 前田 徹, 関田吉久, 湖山信篤, 石原 斌, 遠藤 健, 廣瀬哲也, 朴 英智, 大澤俊也, 新田新吾, 富塚龍二, 黒田 徹, 松本力雄, 山田博文, 佐藤精一, 村上哲朗, 横山 勝, 鈴木 毅, 奈良橋喜芳, 宮川隆平, 國富道人, 堤 謙二, 安江英晴, 二川康郎, 貴島章徳, 石田秀行.
埼玉県北西部地域における結腸癌術後補助化学療法—アンケート調査報告—.
第 48 回埼玉県医学会総会, さいたま, 2011.2.20 (口演)

62. 芳賀紀裕, 桑原公亀, 石畝 亨, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
根治切除不能胃癌に対する緩和手術の臨床的意義.
第3回日本胃癌学会総会, 三沢, 2011.3.3-5 (パネルディスカッション)
63. 伊藤徹哉, 天野邦彦, 石畝 亨, 本城裕章, 芳賀紀裕, 石田秀行, 長田久人,
大野仁司.
胃癌術後後腹膜出血に対し塞栓止血後十二指腸狭窄を続発した一例.
第3回日本胃癌学会総会, 三沢, 2011.3.3-5 (示説)
64. 近谷賢一, 芳賀紀裕, 田島雄介, 石畝 亨, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介,
石橋敬一郎, 石田秀行.
切除と放射線治療が有効であった胃癌異時性脳転移の一例.
第3回日本胃癌学会総会, 三沢, 2011.3.3-5 (示説)
65. 田島雄介, 芳賀紀裕, 近谷賢一, 傍島 潤, 大澤智徳, 岡田典倫, 隈元謙介,
石橋敬一郎, 石田秀行.
胃癌術後7年目に横行結腸に転移をきたした1例.
第3回日本胃癌学会総会, 三沢, 2011.3.3-5 (示説)
66. 橋本昌幸, 隈元謙介, 三浦恵美, 本城裕章, 小野朋二郎, 石橋敬一郎,
芳賀紀裕, 松本春信, 佐藤 紀, 近 範泰, 岡村 孝, 柿本應貴, 石田秀行.
検診を契機に発見された無症候性後腹膜原発褐色細胞腫の1切除例.
第820回外科集談会, 紙上開催

座長・司会

1. Ishida H Chemotherapy for the colorectal cancer (Oral)
9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu, Japan,
August 25-27, 2010
2. Ishida H Special Lecture (Oral)
12th China-Japan-Korea Colorectal Cancer Symposium, Shanghai, China, December
4-5 2010.
3. 石田秀行 症例報告 4 (示説)
第 82 回日本胃癌学会総会, 新潟, 2010.3.3-3.5
4. 石田秀行 忘れられない症例 5 (口演)
第 46 回日本腹部救急医学会総会, 富山, 2010.3.18-3.19,
5. 石田秀行 大腸癌化療-6 (口演)
第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2010.3.18-19,
6. 石田秀行 大腸 2 (口演)
第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010.6.11
7. 石田秀行 大腸疾患に対する緊急手術 2 (示説)
第 73 回大腸癌研究会, 奄美, 2010.7.2
8. 石田秀行 人工肛門の諸問題 3 (要望演題)
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16
9. 石橋敬一郎 大腸 化学・免疫療法 7 (示説)
第 65 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2010.7.14-16
10. 隈元謙介 糖鎖 3 (示説)
第 69 回日本癌学会学術総会, 大阪, 2010.9.22-24
11. 石田秀行 大腸一化学療法 2 (示説)
第 8 回日本消化器外科学会大会, 横浜, 2010.10.15-16

12. 石田秀行 大腸・肛門 薬物療法 2 (示説)
第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2010.10.28-30
13. 石田秀行 術式と SSI 1 (口演)
第 23 回日本外科感染症学会総会, 東京, 2010.11.18-19
14. 岩間毅夫 大腸 21 (口演)
第 72 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23
15. 石田秀行 エビデンスに基づいた最善の SSI 対策 (口演)
第 72 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 2010.11.21-23
16. 岩間毅夫 大腸癌検査 1 (口演)
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27
17. 石田秀行 大腸癌術後管理の現状～早期退院はどこまで可能か?～
(ワークショップ)
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27
18. 石橋敬一郎 大腸癌術後管理 3 (口演)
第 65 回日本大腸肛門病学会学術集会, 浜松, 2010.11.26-27
19. 石田秀行 小腸 II (口演)
第 28 回埼玉県外科集談会, さいたま, 2010.11.27
20. 芳賀紀裕 胃 V (口演)
第 91 回消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2010.12.10-11
21. 石畝 亨 腹膜・ヘルニア (口演)
第 820 回外科集談会, 紙上開催

講演会・懇話会など

座長・司会

1. 石田秀行
川越大腸がん治療セミナー，川越，2010.5.26（座長）
2. 石田秀行
ベクティベックス新発売記念講演会，さいたま，2010.7.6（座長）
3. 芳賀紀裕
第3回小川赤十字病院外科・埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科
合同カンファレンス，川越，2010.7.28（座長）
4. 石田秀行
第2回地域がん診療連携拠点病院埼玉医科大学総合医療センター市民公開講座
川越，2010.7.31（座長）
5. 石田秀行
第9回埼玉GM研究会，さいたま，2010.9.2（座長）
6. 石田秀行
西埼玉消化器外科手術手技カンファレンス，川越，2010.9.15（座長）
7. 石田秀行
第4回埼玉免疫化学療法研究会学術講演会，さいたま，2010.11.12（座長）
8. 石橋敬一郎
第8回西埼玉消化器 ONCOLOGY 研究会，川越，2011.2.16（座長）
9. 石田秀行
第12回侵襲と生体反応研究会，東京，2011.2.19（司会）
10. 石田秀行
第1回大腸癌治療ガイドライン講座－実践編－，川越，2011.2.25（司会）

11. 石田秀行

川越大腸がん治療セミナー，川越，2010.5.26（座長）

講演

教育講演

1. 大腸癌手術におけるドレーンのエビデンス
石田秀行
2010年度前期日本消化器外科学会教育集会，下関，2010.7.16
2. ポリポーシス総論（手術ビデオ供覧含む）.
石橋敬一郎
第13回家族性腫瘍カウンセラー養成セミナー，藤沢，2010.8.26

一般講演

1. 結腸がん術後補助化学療法としての FOLFOX 療法～手術手技を含めて～
石田秀行
いわき GI Cancer Forum，いわき，2010.5.14
2. 胃癌術後補助化学療法について
芳賀紀裕
がん治療地域病診連携勉強会，川越，2010.6.22
3. GIST に対する外科手術
芳賀紀裕
埼玉北部 GIST 勉強会，深谷，2010.7.2
4. 大腸癌について，最近気になっていること～側方郭清と SILS～
石田秀行
第4回京都消化器外科カンファレンス，京都，2010.9.3
5. 大腸がん化学療法の治療戦略
石橋敬一郎
群馬大腸癌治療講演会－生存期間の延長を目指して－，前橋，2010.9.30

6. 地域連携パスを活用した消化器がんの地域連携
石田秀行
茨城県西部がん診療連携セミナー，古河，2010.10.1
7. 胃癌取扱い規約の Up-to-Date
芳賀紀裕
第12回川越消化器病談話会，川越，2010.10.1
8. 結腸癌術後補助化学療法について
石橋敬一郎
第3回北埼玉消化器癌カンファレンス，深谷，2010.11.4
9. 大腸がん地域連携パスへの取り組み
石田秀行
東葛消化器癌地域連携の会，浦安，2010.11.10

その他の発表

1. 高齢者切除不能大腸癌に対する mFOLFOX6/FOLFIRI 療法の安全性と有効性.
田島雄介.
第3回小川赤十字病院外科・埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科
合同カンファレンス，川越，2010.7.28
2. 歯状線直上の直腸癌に対し ISR を施行した1例，及び当科で施行した ISR 症例
の検討.
平岡 優.
川越外科臨床研究会，川越，2010.10.1
3. 当科における食道癌早期経腸栄養の検討.
桑原公亀.
周術期の栄養管理を考える会，2011.1.18
4. 結腸癌術後補助化学療法の治療戦略について.
石橋敬一郎（パネリスト）.
Colorectal Cancer Symposium in Saitama 2011，2011.3.4

主な学会・研究会発表の年次推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
日本外科学会	2	1	2	4	6	5
日本消化器外科学会総会	1	2	7	8	5	7
日本消化器外科学会大会	\	\	\	\	\	4
日本大腸肛門病学会	10	10	8	8	12	10
日本食道学会			1	2	1	
日本胃癌学会			3	1	4	4
日本癌治療学会		1	3	3	6	5
日本臨床外科学会	16	3	17	13	11	7
日本腹部救急医学会		4			3	延期
日本外科感染症学会	1	5	5	3	4	1
大腸癌研究会（年2回）	3	3	2	2	5	3
癌局所療法研究会		2	5	5	6	8
その他の国内学会・研究会	10	17	23	26	27	12
ISUCRS （国際大学直腸結腸外科学会）		3			9	
その他の国際学会	2	3	5	9	9	17
合計	45	54	81	84	108	83

学位

大澤智徳

論文名 : Colorectal cancer susceptibility associated with the hMLH1 V384D variant.

掲載雑誌 : Mol Med Report 2:887-91, 2009

著者 : Ohsawa T, Sahara T, Muramatsu S, Nishimura Y, Yathuoka T, Tanaka Y, Yamaguchi K, Ishida H, Akagi K.

論文要旨 :

リンチ症候群は全大腸癌の 1-5%の頻度で認められ、家系内発症、若年発症、右側結腸好発、低分化型（粘液癌）、重複癌、予後良好などの傾向がみられる常染色体優性遺伝性疾患である。原因遺伝子として、DNA ミスマッチ修復遺伝子である MLH1, MSH2, MSH6, PMS2 が知られており、遺伝子診断として診療にも活用されている。しかしながら、遺伝子変化が病的変異であるかどうかの判断が困難なケースも少なくない。低頻度ではあるが、アジア人にみられる MLH1 の codon384 がバリンからアスパラギン酸へとアミノ酸置換するバリエーションが、大腸癌発症に関与している可能性がないか検討した。日本人大腸癌患者 (CRC:colorectal cancer) 670 例と対照 (control) 332 名の V384D のバリエーション (384GAT) の検出を行った結果、このバリエーションの頻度は、CRC 群 6.0%に対し対照群 1.5%であり明らかな差を認めた ($p < 0.002$)。CRC 群を 384GTT ($n=630$)、384GAT ($n=40$) の 2 群にわけて比較検討した結果では、micro-satellite instability; MSI を含め、年齢、性別、腫瘍径、癌局在、分化度、Dukes 分類、多重がんの頻度などに明らかな差を認めなかった。MLH1 V384D バリエーションは、MSI など伴わず既知の機序とは異なった大腸癌の発生に関与している可能性が示唆された。

賞

第 16 回日本外科学会研究奨励賞

石橋敬一郎

Short-term intravenous antimicrobial prophylaxis in combination with preoperative oral antibiotics on surgical site infection and methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* infection in elective colon cancer surgery: results of a prospective randomized trial
Surg Today 39:1032–1039, 2009

第 21 回日本消化器癌発生学会 優秀ポスター賞

大澤智徳

家族性大腸腺腫症に発生した甲状腺癌の APC 遺伝子の 20 アミノ酸リピート数の検討（自験例 2 例と本邦報告例の検討）。

隈元謙介

胃癌における MECA-79 発現の臨床的意義。

学内グラント

平成 22 年度埼玉医科大学グラント研究費（壱百万円）

隈元謙介

大腸癌におけるマイクロ RNA 発現解析と薬剤感受性関連遺伝子の包括的検討

人 事

教授	准（助）教授	講師	助教（助手）	
石田秀行	芳賀紀裕	石橋敬一郎	岡田典倫	
岩間毅夫（客員教授）	辻美隆（兼担）	隈元謙介	○大澤智徳	
			傍島 潤	
			桑原公亀	
			石畝 亨	
			天野邦彦	
			幡野 哲	
			外間尚子	～10.9
			小野朋二郎	10.10～
			田島雄介	
			石井正嗣	～10.7
			久保田 将	10.9～
			本城裕章	
			平岡 優	～10.8
			伊藤徹哉	
			近谷賢一	

○医局長（総務担当）

出向中医師（2011.4.1 現在）

沖田剛之	（毛呂病院）
吉田 裕	（小川赤十字病院）
石塚直樹	（埼玉よりい病院）
鈴木興秀	（大学院）
外間尚子	（北福島医療センター）
近 範泰	（東京都立大塚病院）
山本 梓	（小川赤十字病院）

編集後記

昨年は、埼玉医科大学総合医療センター外科が2005年に再編され、消化管・一般外科となってからの5年間の臨床実績、業績を「消化管・一般外科5年のあゆみ」としてまとめさせていただきました。今年からは1年ごとに教室の実績を振り返り、まとめることにより一步一步教室として前進していこうと考え、この業績集の刊行となりました。

昨年に引き続き、わたくし芳賀が編集を担当させていただきましたが、今年も日常診療に忙しい中、当教室から論文24編、発表83を行うことができました。

予定手術数は諸般の事情でやや頭打ちになってきておりますが、閉鎖状態であった1階の手術室の運用開始（肛門疾患が中心ですが）と、土曜日の局所麻酔手術が可能になったこと、さらに今年は手術室も1室増床されることにより、手術枠が増える予定です。手術待機期間の短縮も期待され、引き続き諸先生方からのご紹介をお願いしたいと思います。

昨年度は3名の新人を迎え、1年かけて外科医として独り立ちしつつありますが、今年度は残念ながら新しい教室員を迎えることはできませんでした。やはり若い力が教室音発展のためには不可欠であり、今後は外科の魅力を学生、研修医にもっと伝えるように努力してまいりたいと考えております。

引き続き今後も皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

平成23年6月

芳賀紀裕